

## 第 2 回弟子屈町食育推進会議

と き：平成 2 0 年 1 2 月 2 4 日（水）午後 1 時 3 0 分

と ころ：弟子屈町役場委員会室

（ 1 ）開 会

（ 2 ）会長あいさつ

（ 3 ）協議事項

・ 弟子屈町食育推進計画〔たたき台〕について

・ 今後のスケジュールについて

（ 4 ）その他

（ 5 ）閉 会

弟子屈町食育推進会議委員

	氏 名	所 属 団 体 役 職 名 等	備 考
会長	徳永 哲雄	弟子屈町長	
委員	素川 敏幸	弟子屈町校長会 広報部長（学校保健協議会会長）	欠席
委員	種田 敦子	弟子屈町学校保健協議会 副会長、調査研究委員長	
委員	田邊 千絵	弟子屈高等学校 教諭	欠席
委員	木村 孝博	弟子屈町連合父母と先生の会（第P連）会長	欠席
委員	畑中 光文	おひさま保育園保護者の会 会長	
委員	中田 士郎	弟子屈町自治会連合会 副会長	
委員	伊藤 律子	J A 摩周湖 女性部 部長	欠席
委員	松岡 和義	弟子屈町商工会 理事	欠席
委員	及川 宏	標茶地方食品衛生協会 川湯支部長	
委員	若月 玲児	(社)北海道全調理師会川上支部 幹事長	欠席
委員	羽石 敏子	弟子屈消費者協会 理事	
委員	坂本 直子	J A 北海道厚生連 摩周厚生病院 栄養科長	
委員	佐藤 宏幸	高台歯科クリニック 院長	
委員	館 昭子	弟子屈町健康づくり推進委員会 1ブロック代表	欠席
委員	笹島 久美	" 2ブロック代表	
委員	家久ケイ子	公募委員	
委員	吉備津安夫	農林課長	
委員	青木 裕志	保健福祉課長	欠席

弟子屈町食育推進会議 事務局

氏 名	所 属	備 考
赤間 幸男	弟子屈町農林課長補佐	
山口 智明	弟子屈町農林課農政係長	
佐々木章丞	弟子屈町農林課農政係主事	

弟子屈町食育推進会議 関係部局職員

氏 名	所 属	備 考
山口 洋子	弟子屈町保健福祉課長補佐兼健康推進係長	
松岡 厚子	弟子屈町こども未来課子育て支援センター子育て推進係長	
高田 員可	弟子屈町保健福祉課健康推進係	管理栄養士

## 弟子屈町食育推進計画作成に向けて

### 1) スケジュール(案)

- |              |   |
|--------------|---|
| ・平成20年 8月 1日 | 第1回食育推進会議                                       |
| ・平成20年 8月    | 委員各位で、計画書に記載する項目を検討、事務局へ提案。<br>事務局は、たたき台を作成。    |
| ・平成20年12月24日 | 第2回食育推進会議。たたき台に対する検討。<br>事務局は、あらかじめ各委員へたたき台を送付。 |
| ・平成21年 1月    | 第3回食育推進会議。計画書原案のとりまとめ                           |
| ・平成21年 1月    | パブリックコメント(町民から意見を求める)                           |
| ・平成21年 2月    | 第4回食育推進会議。意見等に対する検討、加筆修正                        |
| ・平成21年 3月    | 第5回食育推進会議。「弟子屈町食育推進計画」の完成                       |
| ・平成21年 4月    | 計画書の公表。各団体による実践活動                               |
| (平成21年 秋     | 食育推進計画に対する実践活動状況の確認等)                           |

### 2) 活動内容(案)

- ・食育に関する研修
- ・関係団体との交流会
- ・料理教室の開催(食育ボランティア)
- ・食育の実践活動
- ・広報活動(町広報紙、ホームページ、パネル展、イベントへの参加など)
- ・農場や食品工場などの見学(教育ファーム)
- ・地産地消の推進(生産者、消費者、商業者、観光産業)

## 処理顛末

### (1) 開会

### (2) 会長あいさつ

徳永町長より。食に関しては、中国での食品偽装やメタボリックシンドロームなど、いろんな社会問題となっている中で、町の食育推進計画の素案が出来た。医食同源という言葉のように、生きていく上で食は最も大切なものである。素案に対して意見を頂きたい。

### (3) 協議事項

#### ・弟子屈町食育推進計画のたたき台について

事務局) 食育基本法に基づき、国の食育推進基本計画と北海道食育推進行動計画に沿った形で、他市町村のものを参考にし、弟子屈町の独自性も考えながらたたき台を作成。

第1章で総論、第2章で全国的な食に関する現状と課題、第3章でアンケートをもとにした弟子屈町の食の現状把握と課題、第4章でそれを受けた食育の推進目標など、第5章でアンケート結果や用語解説を整理。弟子屈町の独自性として、弟子屈町農業の紹介、牛乳消費量の目標を200ml/日、そば打ち、牛乳・乳製品の説明などを記載。

#### ・各委員からの要望など

第1章～第3章は、特に問題ないと考える。この会議での議論は、第4章が中心となる。アンケート結果は、見開きページ以外なくても良いのでは？牛乳の資料は良くできていて、私も知らなかったことが書いている。

巻末に牛乳の紹介があるが、地場産にはジャガイモやハクサイなどもあるので、それらについても記載してはどうか？「食育の考え」というのは「教育する」ということであり、実際に子どもたちへ教えていくことが必要と考える。またそば打ちなど書かれているが、具体的に実践していくことが必要である。

他市町村の計画書と比べて、弟子屈町の素案は良くまとめられていると思う。計画書に書かれたことを、いかに実現していくかが大切である。釧路の食品衛生協会の中で未来子ども協議会という活動をしているが、川上支部で子どもたち100人を渡辺体験牧場に案内したところ、牛乳や地産地消など現場の声を聞いたり、牛に触るなど体験することができ、非常に良い内容だった。給食センターが新設されるようだが、地場産のものが提供できるよう、JAと納入業者との連携が取れるよう望む。

全体的によい内容であるが、「食べることの大切さ」「農畜産物に対する感謝の気持ち」についても記載して欲しい。

弟子屈町の農業や牛乳など、よくまとまっている。P26の「健康的な食生活を送っている人の割合を増やす」について、きちんとした現状把握が必要では？P39の年次計画はなくてもよいのではないか？P51からの用語解説では、関連するもの同士まとめた方がよいのでは？

学校では「給食指導年間計画」を定め、食への感謝や食品栄養などについて教えているが、担任や学校によってバラツキがある。渡辺体験牧場での酪農体験をしている学校もあり、町内の専門家からいろいろ聞くことが大切と考える。体験は年1～2回程度で、

機会が増えると地域のつながりが良くなる。

学校間の連携がなく、各学校での対応となっている。それをまとめる教育委員会で食育を進めるべきでは？

地域や学校での取り組みも重要だが、家庭での食育も大事である。「三つ子の魂百まで」というように、子どもの時の食習慣は大人になっても変わらない。朝食を作らない家庭が多いが、料理教室で子どもに料理を教えても、親が料理しない。親子一緒に料理を教えることが必要である。嫌いなものを残してしまうことも考えなければ。

もう少しシンプルの方がよいのでは？ P 28 の「小中高生のそば打ち体験の目標を 100%」という数字を出すより、「農業体験を % に近づける」という方がよいのでは？

「食への感謝の気持ち」を記載して欲しい。昔は食べ物がなさ過ぎて、草を食べていたこともあったようだが、今は食べ物が十分で、当たり前に残してしまっている。農家の苦勞を分かってもらうようなことを記載してはどうか？

事務局) 最近の赤ちゃんは 2,500g 以下の低体重が多く見られる。若いときの無理なダイエットが影響しているようで、反動で大人になるとメタボになる。若い女性はやせすぎと思っていないようだ。

事務局) 先般摩周丘幼稚園で、食育の取り組みについて打ち合わせした。

噛むことについて記載が少ない。1口30回噛むことで歯並びが良くなる。時間をかけて食べるにより満腹中枢が働き、栄養過多になりづらい。若い頃から良く噛んでいれば年寄りになっても流動食に頼ることなく、そしゃくで笑顔が見られ、生きる望みとなる。(佐藤委員に歯科医から見た食育について、記載してもらったこととなった)

会長) これらの意見を計画書に反映させ、次回の食育推進会議に報告したい。

#### ・スケジュールなどについて

事務局) 別紙のとおり予定。食育活動内容について、計画書を作ることが目的でなく、朝食の大切さや食品栄養などを理解し、箸の持ち方などのマナー、郷土料理を作ることなど、食育の実践が大切である。別紙のような活動を検討していきたい。

#### (4) その他

旅館組合では、地域の食材利用拡大を考えている。どのような農畜産物が提供できるのかなど、町担当職員も旅館組合の会合に参加して欲しい。

#### (5) 閉会

町長あいさつ。新年度は市民農園を設置する予定である。健康な土で野菜作りを行ってほしい。若いお母さんが核家族の中でも、親から子へ、子から孫へ、食文化をきちんと繋げていけるよう期待したい。